

令和7年度 さいたま市民意識調査 (概要版)

<調査項目>

在住者意識調査		在勤者意識調査
①地域での生活	⑤防犯対策	①さいたま市のイメージ ②市内での活動
②さいたま市のイメージ	⑥SDGs	
③市政との関わり	⑦今の地域を選んだ理由	
④市政への満足度・重視度		

<調査のあらまし>

	在住者意識調査	在勤者意識調査
調査地域	さいたま市全域	さいたま市全域の事業所
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	さいたま市外からさいたま市内の事業所に通勤する満18歳以上の男女
調査対象数	5,000人	2,000人
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
調査方法	郵送配布・郵送又はWEB回収	
調査期間	令和7年6月2日～令和7年6月18日	
回収結果	有効回収数 2,240	有効回収数 629

<概要版の見方>

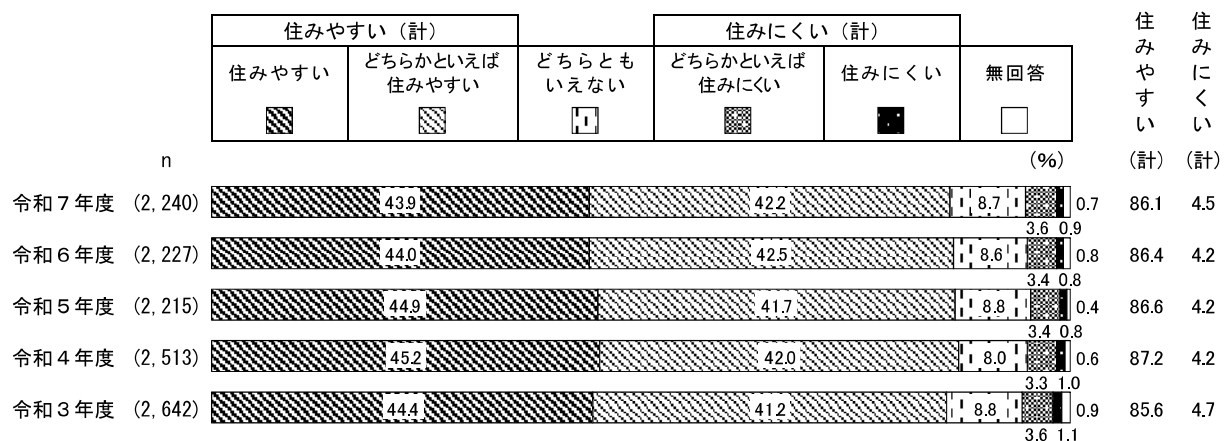
- 図中の「n」は、各設問の回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、nを基数として百分率の小数第2位を四捨五入して算出しました。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがあります。
- 図中で、在住者と在勤者の比較をしている場合は、在住者の順位を基準に示しています。
- 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化して示しています。



★さいたま市は「住みやすいまち」ですか。

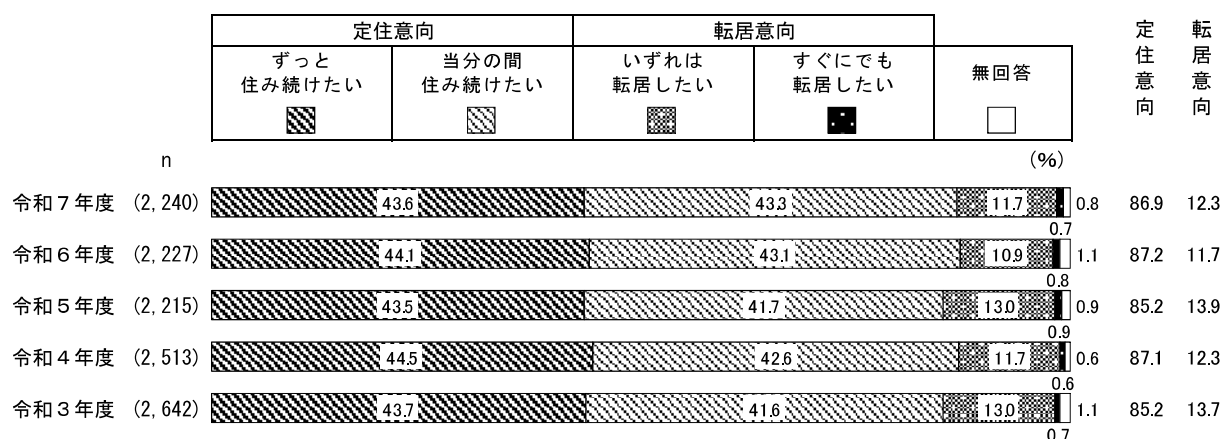
■住みやすい人は86.1%

在住者が感じる地域の住み心地は、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい(計)』は86.1%で、8割半ばであった。



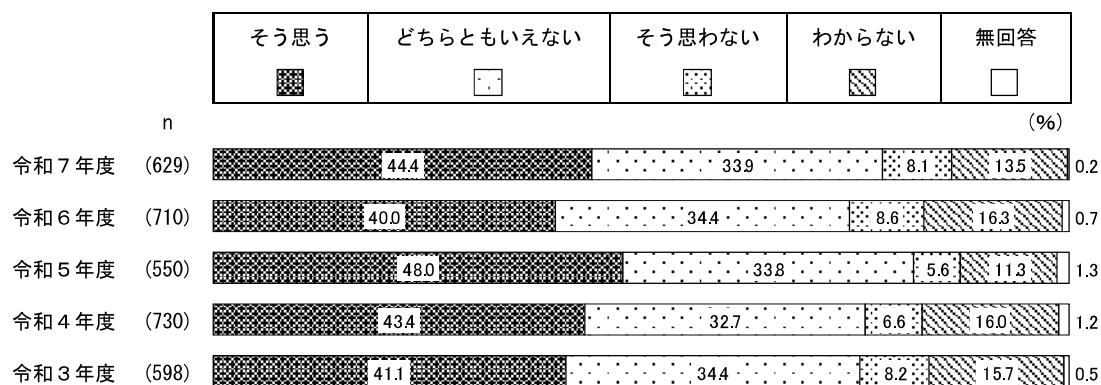
■住み続けたい人は86.9%

今の地域に「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた『定住意向』は86.9%で、9割近くであった。



■「住みやすいまち」だと思う人は44.4%

在勤者に、さいたま市は「住みやすいまち」だと思うかを聞いたところ、「そう思う」は44.4%であった。

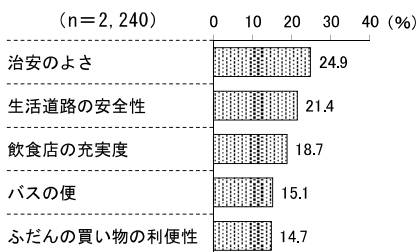


★お住まいの「地域」が、今後どのようなになればよいですか。

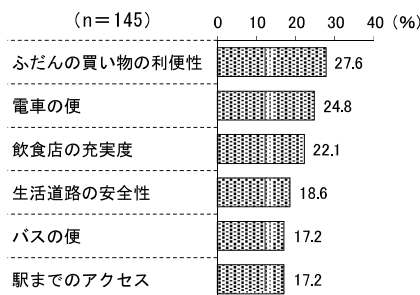
■「治安のよさ」が、10区中7区で1位

お住まいの「地域」の発展の方向性を3つまで聞いたところ、「治安のよさ」が10区中7区で1位となり、西区、岩槻区を除き上位5項目に入った。また、「飲食店の充実度」、「生活道路の安全性」はすべての区で上位5項目に入った。

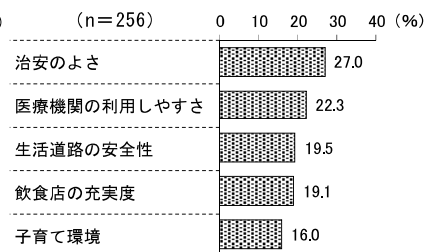
【さいたま市全体 上位5項目】



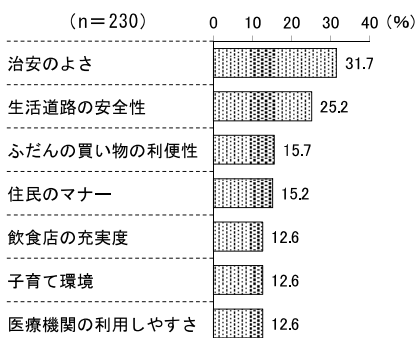
【西区 上位6項目】



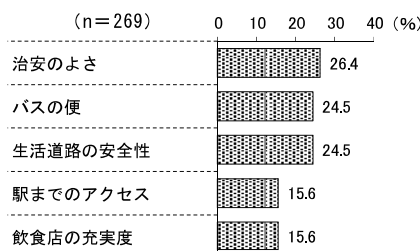
【北区 上位5項目】



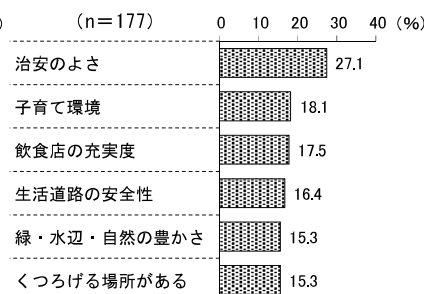
【大宮区 上位7項目】



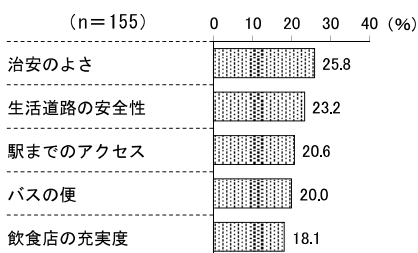
【見沼区 上位5項目】



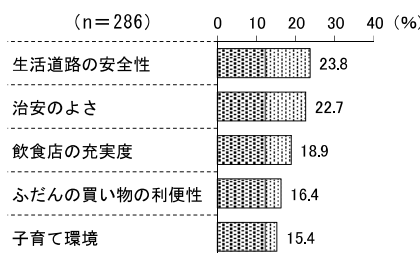
【中央区 上位6項目】



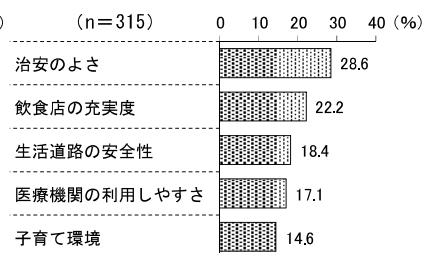
【桜区 上位5項目】



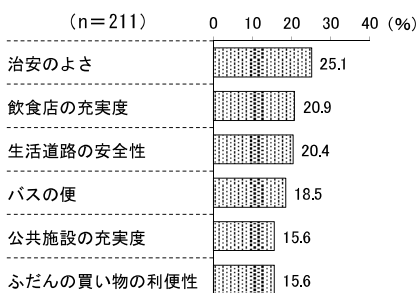
【浦和区 上位5項目】



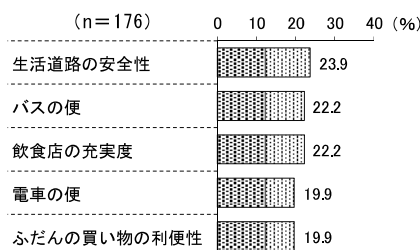
【南区 上位5項目】



【緑区 上位6項目】



【岩槻区 上位5項目】

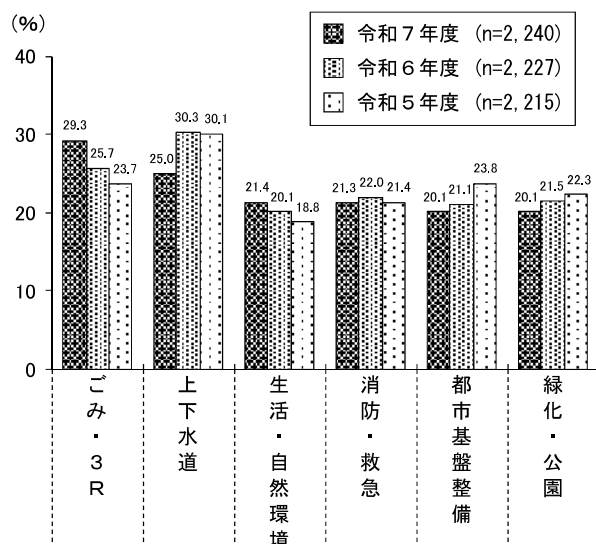


★「さいたま市」が行っている施策や事業の満足度・不満度(上位6項目)

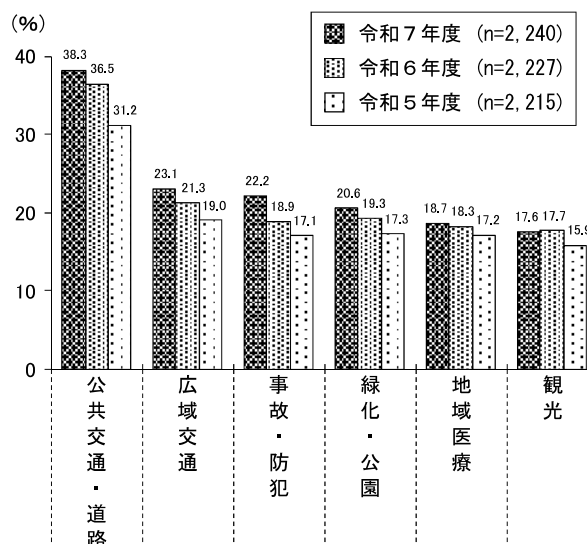
■満足度1位は「ごみ・3R」、不満度1位は「公共交通・道路」

各施策や事業の満足度を聞いたところ、満足度は、「ごみ・3R」(29.3%)、不満度は、「公共交通・道路」(38.3%)が最も高かった。

【満足度 上位6項目】



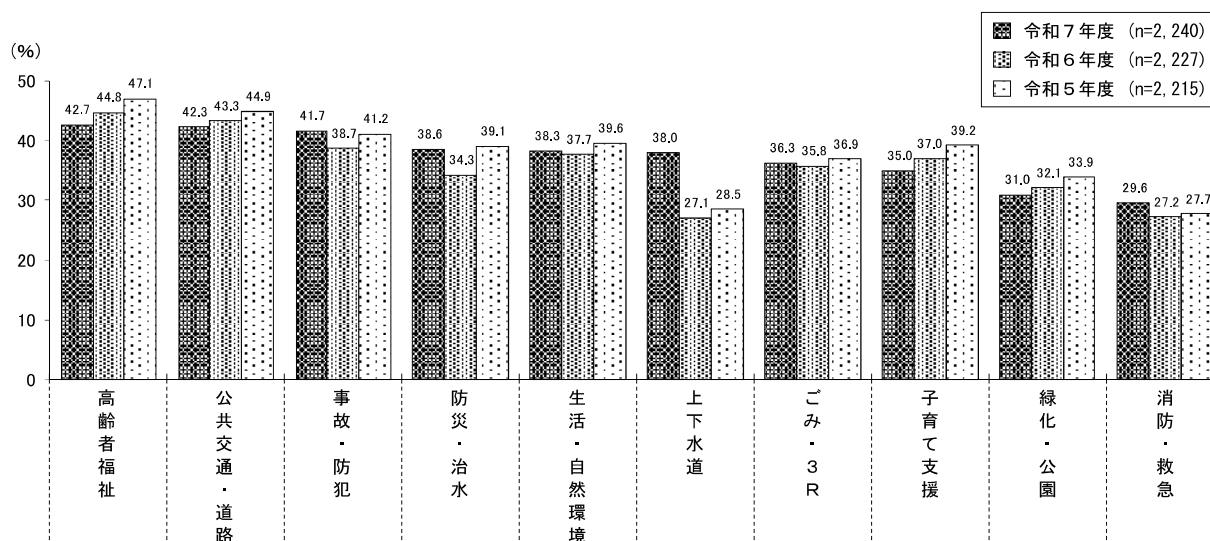
【不満度 上位6項目】



★今後、力を入れてほしい施策や事業(上位10項目)

■「高齢者福祉」が42.7%

今後、力を入れてほしい施策や事業を聞いたところ、「高齢者福祉」が42.7%で最も高く、「公共交通・道路」(42.3%)、「事故・防犯」(41.7%)が続いた。

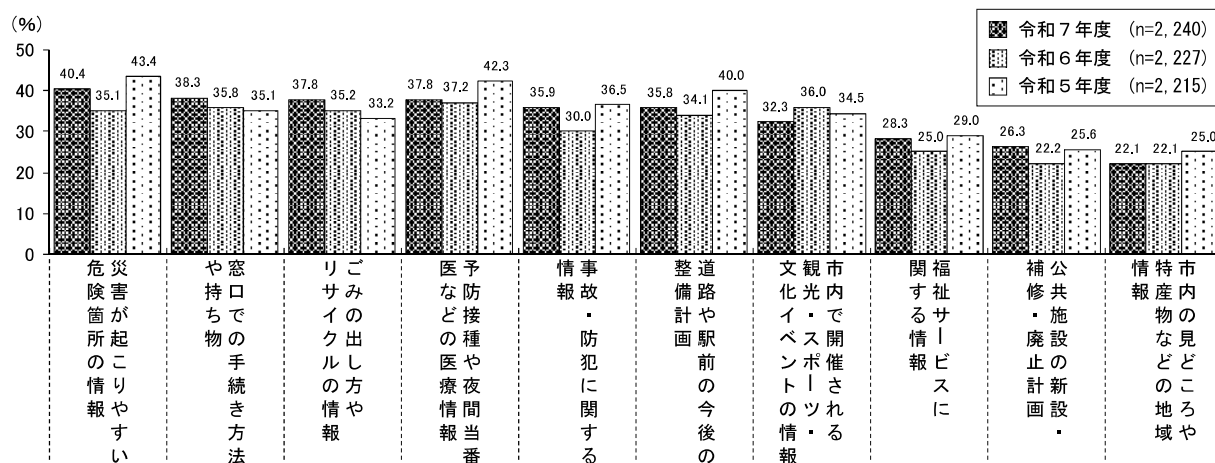


★市役所からの情報で、特に知りたいものは何ですか。(上位 10 項目)

■「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が1位

市役所からの情報で特に知りたいものを聞いたところ、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」が40.4%で最も高く、「窓口での手続き方法や持ち物」(38.3%)、「ごみの出し方やリサイクルの情報」(37.8%)が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ、「事故・防犯に関する情報」(35.9%)は5.9ポイント、「災害が起こりやすい危険箇所の情報」は5.3ポイント、「公共施設の新設・補修・廃止計画」(26.3%)は4.1ポイント増加した。

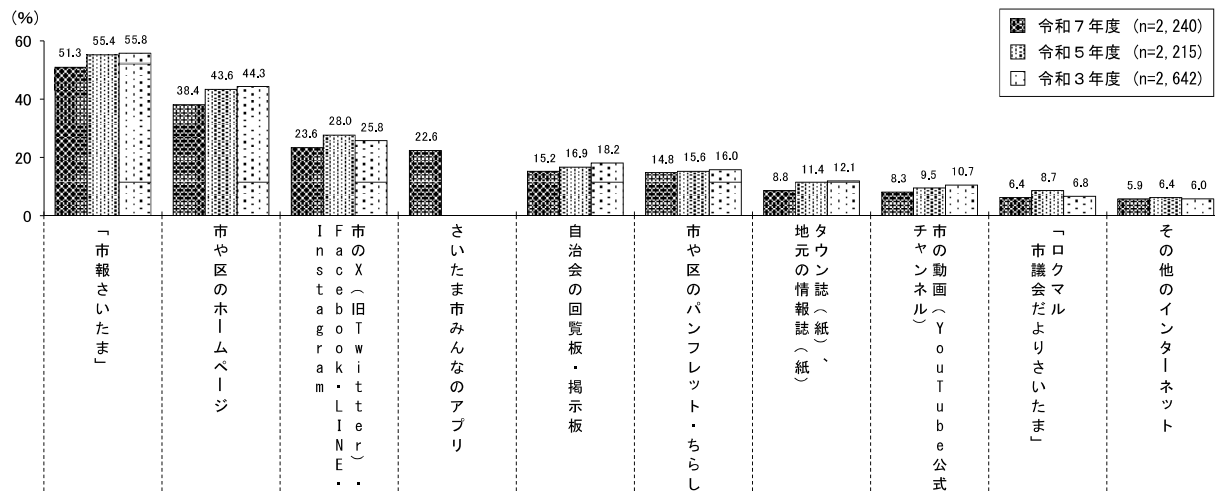


★市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体(上位 10 項目)

■「市報さいたま」が51.3%

市が発信する情報の入手方法として充実すべき媒体を聞いたところ、「市報さいたま」が51.3%で最も高く、「市や区のホームページ」(38.4%)、「市のX(旧Twitter)・Facebook・LINE・Instagram」(23.6%)が続いた。

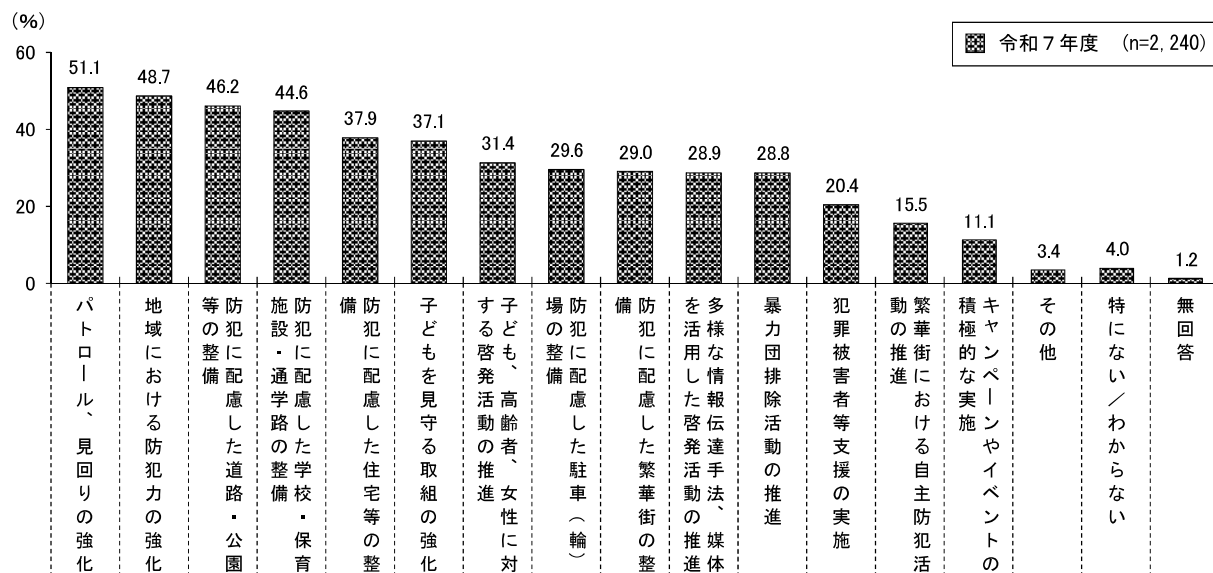
過去2回の調査結果と比較すると、令和5年度と比べ、ほとんどの項目が減少しており、上位3項目は4.0ポイント以上減少した。一方、新規項目の「さいたま市みんなのアプリ」は、22.6%であった。



★「防犯対策」で特に重視すべきこと

■「パトロール、見回りの強化」が51.1%

「防犯対策」で特に重視すべきことを聞いたところ、「パトロール、見回りの強化」が51.1%で最も高く、「地域における防犯力の強化」（48.7%）、「防犯に配慮した道路・公園等の整備」（46.2%）が続いた。

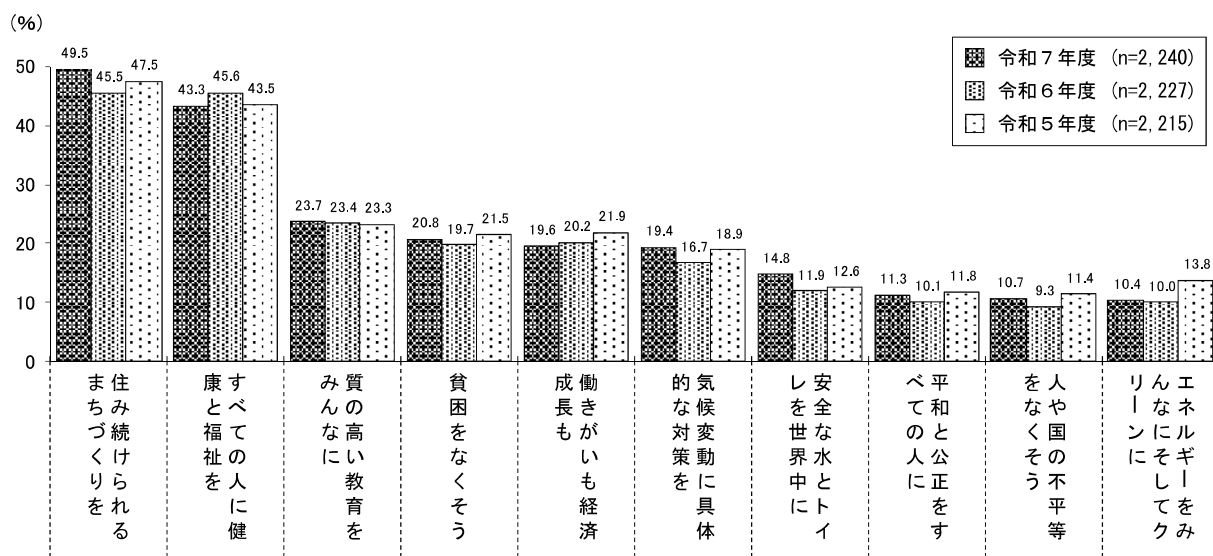


★SDGsで重視する目標(上位10項目)

■「住み続けられるまちづくりを」が49.5%

SDGsで重視する目標を聞いたところ、「住み続けられるまちづくりを」が49.5%で最も高く、「すべての人に健康と福祉を」（43.3%）、「質の高い教育をみんなに」（23.7%）が続いた。

過去2年間の調査結果と比較すると、令和6年度と比べ「住み続けられるまちづくりを」は4.0ポイント増加した。

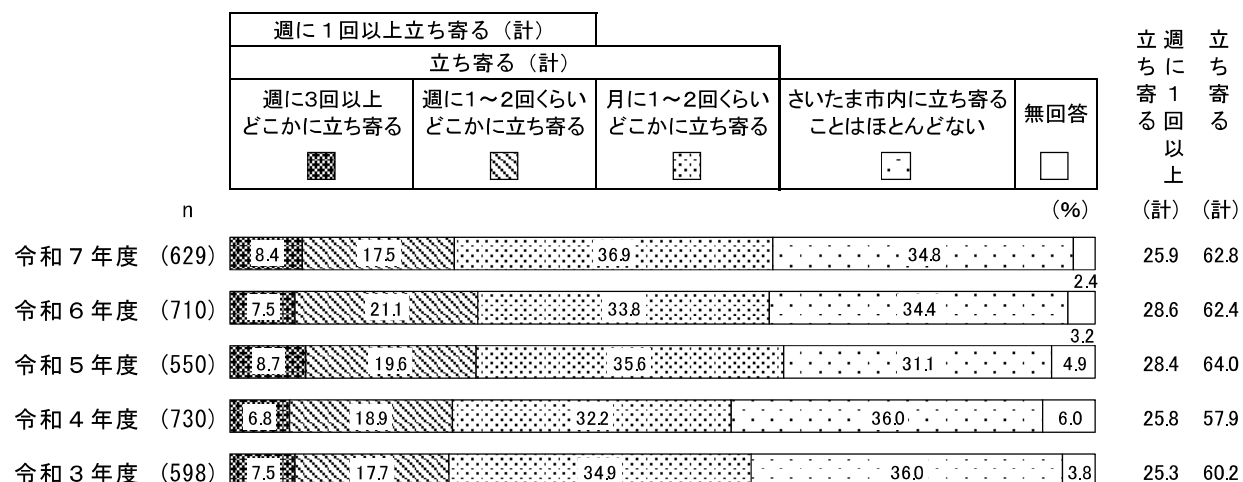


★在勤者に、仕事のあとのさいたま市内での活動について聞きました。

■さいたま市内に『週に1回以上立ち寄る（計）』は25.9%

在勤者に、仕事のあと、食事や買い物などでさいたま市内のどこかに立ち寄ることがあるか聞いたところ、「週に3回以上どこかに立ち寄る」(8.4%)と「週に1～2回くらいどこかに立ち寄る」(17.5%)を合わせた『週に1回以上立ち寄る（計）』は、25.9%であった。さらに「月に1～2回くらいどこかに立ち寄る」(36.9%)を合わせた『立ち寄る（計）』は、62.8%であった。

過去4年間の調査結果と比較すると、令和5年度以降おおむね同じであった。

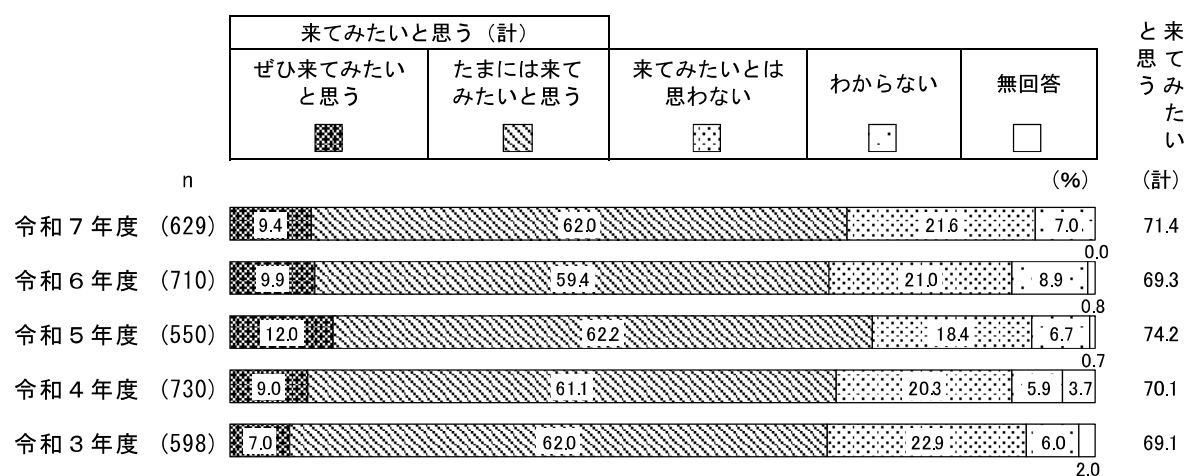


★在勤者に、仕事が休みの日にさいたま市に来てみたいと思うか聞きました。

■さいたま市に『来てみたいと思う（計）』は71.4%

在勤者に、仕事が休みの日に買い物や遊びでさいたま市に来てみたいと思うか聞いたところ、「ぜひ来てみたいと思う」(9.4%)と「たまには来てみたいと思う」(62.0%)を合わせた『来てみたいと思う（計）』は、71.4%であった。

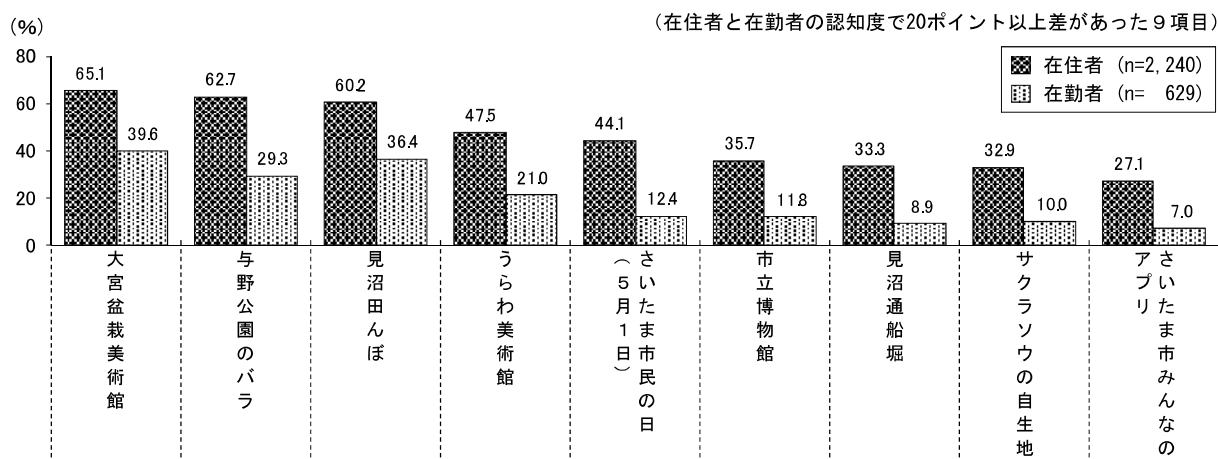
過去4年間の調査結果と比較すると、令和6年度とおおむね同じであった。



★さいたま市について知っているものは何ですか。

■認知度で在住者が在勤者を最も大きく上回ったものは「与野公園のバラ」

さいたま市について知っているものを聞いたところ、在住者と在勤者の差が特に大きかったものは「与野公園のバラ」(33.4ポイント差)、「さいたま市民の日(5月1日)」(31.7ポイント差)、「うらわ美術館」(26.5ポイント差)であった。



令和7年度 さいたま市民意識調査(概要版)

発行	さいたま市 市長公室 秘書広報部 広聴課	調査実施	株式会社 物流科学研究所
	〒330-9588		〒330-0052
	さいたま市浦和区常盤6-4-4		さいたま市浦和区本太2-2-36
			SUNCREST 302
電話	048(829)1931(直通)	電話	048(887)3790
FAX	048(825)0665		

[このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、257万円です。]